

(巻頭言)

参加したら、話してみたら、出会ってみたら

更埴教育会長 久保田 英雄

4月5日(木)の入学式は、満開のサクラが子どもたちの学校教育のスタートお祝いするように咲いていました。例年にない温かい春の中、更埴内の各校も順調な出発ができたとお聞きしています。この順調な始まりは、入学した児童生徒に限らず、一つずつ学年が上がったりクラス替えがあったり担任が変わったりしたすべての子どもたちの新たな学校生活への「夢と希望の気持ちが表れたものであればいいな。」と多くの花々が咲き競う姿を愛でながら願う平成30(2018)年度の始まりでした。

さて、多くの方のご推挙を受け、本年度の更埴教育会会長を務めさせていただくことになりました。もとより、微力ではございますが、「**会員の自発的活動を基調**として、会員相互に信頼し協力して**職能の向上と地域における教育の振興をはかる**ことを目的とする」更埴教育会をめざし「**子どもたちの健やかな成長**」のため進みたいと思います。ご支援のほどよろしくお願ひします。

昨年度から今年度にかけて大きなうねりとして、「働き方改革」があります。その願ひは「教師の専門性を生かしつつ、授業やその準備に集中できる時間、教師自らの専門性を高めるための研修の時間、児童生徒と向き合う時間を充分確保することで、自らの人間性を高め、児童生徒に効果的な教育活動を行うことができるよう、取り組みの徹底。」です。更埴教育会員407名のみなさんと専門性を高めるための研修の時間と機会を提供することができる教育会として、「講演会などで◎◎先生の話聞いてみたい。」「○○教育研究会に参加して、◇◇の研修を受けてみたい。」と願うような取り組み、また、諸先輩の創りあげてくださった「教育を語る会」や「教育研究集会」「各種研究調査委員会」などを理事・監事・幹事・代議員のみなさんの英知を集めて地域の教育会ならではの取り組みを進めてまいりたいと思います。

しかし、教育会の諸行事を妨げるものがあります。それは「教育現場の忙しさ」です。加えて、「教育会に加入しなくても、情報があふれる時代であり、嫌でも情報が入ってくるから研修はいらない。」「教育会の研修に出かけなくても、官制研修がある。」等の受身な見方考え方もあるように思います。心も体も疲れ、気持ちが前に出ない教職員もおられるかもしれませんし、かつての私もそのように思ってしまう時がありました。「忙しい」時代の中、「受動的な思い」が生まれるこの時だから、「子どものためになる研修は何か。」を問う時、研修がもたらす内容と共に、「人との出会い」「人のつながり」「自ら以外の人々から受ける人間味溢れる生きざま」これこそが教育会員お一人おひとりの人間性をより育む=元気を互いに分かち合うことが、何よりの働き方改革ではないかと思うのです。「参加したら、話してみたら、出会ってみたらいいことがある教育会」をめざしたい。共に歩もうではありませんか。